研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-151		14-068	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門

題名（原題／訳）

Alcohol consumption and cognitive performance: a Mendelian randomization study.
飲酒と認知機能：メンデルランダム化解析より

執筆者

Kumari M, Holmes MV, Dale CE, Hubacek JA, Palmer TM, Pikhart H, et al.

掲載誌

Addiction. 2014 Sep;109(9):1462-71. doi: 10.1111/add.12568.

キーワード	PMID
飲酒、認知機能、記憶、メンデルランダム化解析、ADH1B	24716453

要　旨

目的：
メンデルランダム化解析によって飲酒による認知機能への影響について評価する。

方法：
ヨーロッパにおいて 34,000 人以上を対象として、飲酒に関する遺伝子多型（ADH1B rs 1229984）を用いたメンデルランダム化解析によって飲酒と認知機能について不偏推定値を求めた。飲酒の有無及び前週の飲酒量について質問表によって評価した。認知機能は言語想起、発語の流暢性、処理速度の観点から評価した。

結果：
非飲酒群に対して飲酒群は認知機能の高いスコアと関連していた〔直後の想起で-0.17 SD(95%信頼区間=0.15, 0.20)。時間をおいてからの想起で 0.17 SD(95%信頼区間=0.14, 0.19)、発語の流暢性では 0.17 SD(95%信頼区間=0.14, 0.19)、処理速度では 0.12 SD(95%信頼区間=0.09, 0.15)、rs1229984 のマイナーアレルは飲酒の低オッズと関連していた(オッズ比=0.87, 95%信頼区間=0.80, 0.95)。メンデルランダム化解析によると、マイナーアレルは認知機能のスコアと関連がなく、操作変数解析では飲酒と認知機能との間に因果関係は示唆されなかった〔直後の想起で-0.74 SD(95%信頼区間=-1.88, 0.41)。時間をおいてからの想起で-1.09 SD(95%信頼区間=-2.38, 0.21)、発語の流暢性では-0.63 SD(95%信頼区間=-1.78, 0.53)、処理速度では-0.16 SD(95%信頼区間=-1.29, 0.97)〕。

結論：
メンデルランダム化解析によって、飲酒と認知機能の間に明確な因果関係は認められなかった。